

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

## 議案

協議会名: 柏崎市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通(株)	東市街地循環線(ひまわり) ・比角先回り ・半田先回り	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。 (4)市街地循環バスにおける中学・高校生運賃の新設や、経路情報検索サービスの充実などを盛り込んだ新たな地域公共交通計画を策定した。	A	C 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	目標である収支率35%以上に対して、実績は31.5%(前年度比+0.5%)で目標は達成できなかった。ただし、新型コロナウイルス感染症による外出自粓が緩和されたことなどにより、利用数は増加傾向にあり、改善の兆しが見えてきている。  今後も生活交通を確保していくため、新たに策定した柏崎市地域公共交通計画に基づき、市街地循環バスにおける中学・高校生運賃の新設や、経路情報検索サービスの充実図るとともに、アフターコロナに向けた利用促進事業を展開していく。
越後交通(株)	柏崎駅前～野田線 ・日吉町経由 ・石塚経由 ・医療センター経由	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。 (4)高齢者や障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実などを盛り込んだ新たな地域公共交通計画を策定した。	A	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	目標である収支率22%以上に対して、実績は24.4%(前年度比+7.9%)で目標を達成できた。 目標を達成できた要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粓が緩和されたことによる利用回復したことが挙げられる。  今後も生活交通を確保していくため、新たに策定した柏崎市地域公共交通計画に基づき、利用頻度が高い高齢者・障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実図るとともに、アフターコロナに向けた利用促進事業を展開していく。
越後交通(株)	柏崎駅前～久米線	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。 (4)高齢者や障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実などを盛り込んだ新たな地域公共交通計画を策定した。	A	C 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	目標である収支率25%以上に対して、実績17.5%(前年度比△0.5%)で目標を達成できなかった。 目標を達成できなかった要因として、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粓はやや緩和されたものの、利用頻度が高い高齢者が身体的理由等から乗降車困難になったことにより利用者が減少したと分析している。  今後も生活交通を確保していくため、新たに策定した柏崎市地域公共交通計画に基づき、利用頻度が高い高齢者・障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実図るとともに、アフターコロナに向けた利用促進事業を展開していく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	柏崎市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市の地域公共交通は、人口減少などにより、路線バス等の利用者数の減少に歯止めがかかっていない。また、新型コロナウィルス感染症などの影響による外出自粛などにより、利用者は更に減少し市内の路線バスの運行本数の著しい減少が利便性の低下を招き、ますます利用者数が減少していくといった「負のスパイラル」の状況に陥っている。さらには運転士の高齢化や、地域公共交通に係る財政負担額の膨大化などにより、本市の地域公共交通の維持は大変困難な状況となっている。</p> <p>このような状況下でも、自動車を運転しない高齢者や高校生などにとって、地域公共交通は大切な移動手段であり、その方々の通院や買い物、通学などにおける生活の足は、これからも確保していかなければならない。</p> <p>誰もが安心・安全に移動できる地域公共交通ネットワークの構築を実現させるため、地域間幹線系統の主たるバス停である「柏崎駅前」と、郊外へ向かうフィーダー系統を接続させ、ネットワークの骨格を形成することが重要である。</p>